

嵐ヶ丘

WUTHERING HEIGHTS

ケイト・ブッシュ

KATE BUSH

WORDS & MUSIC by KATE BUSH

独特な世界を描き出す衝撃のデビュー作

文芸的で高尚な雰囲気さえ醸し出す「嵐ヶ丘」

文◆立川芳雄

「嵐ヶ丘」は、78年にリリースされたケイト・ブッシュのデビュー・アルバム『天使と小悪魔』に収録されている。この曲は、彼女のデビュー・シングルでもあり、全英チャートで4週間第一位となり、ヨーロッパ全土で140万枚のセールスを記録した。

デビュー当時のケイトは、日本では一部のファンによる熱狂的支持を除けば、あまり高い評価を獲得していなかったように思う。なにしろ、アルバム・タイトルが『天使と小悪魔』などというミもフタもないものだったし、ジャケットも日本盤だけ英国盤と異なり、彼女のポートレートだった(オリジナル・ジャケットは、ディズニーのピノキオからヒントを得たらしいが、そのわりには妙に東洋的な不思議なデザイン)。かつてはこのように、美貌を備えた女性シンガーがデビューすると、アイドル・タレント的に売ってしまおうとする傾向が日本の音楽業界には強かったのだ。おまけに、彼女はデビューと同時に来日するのだが、それは「東京音楽祭」に出場し、TV-CMに登場するためだったのだ。このような理由で、当時の彼女には、残念ながら「イギリスの歌謡曲歌手」的なイメージがどうしても付きまとっていたのだ。

しかし、その「東京音楽祭」をたまたまテレビで見た私は、初めて聴くケイトの歌(それは日本でのデビュー・シングルであった「嘆きの天使」だった)にかなりの衝撃を受けた。いや、歌だけではなく、リンゼイ・ケンプに直接指導を受けたというその踊りや、彼女の目つき、表情までもが実に衝撃的だった。久々に、存在そのものが芸になっている女性シンガーが登場した、と私は思ったものだ。

デビュー当時のケイトは、ポップでシンプルでメロディアスな名曲を数多く書いている。その後、80年代になると、彼女は自ら作品のプロデュースを手掛け、病的なまでに凝りに凝ったシアトリカルな音世界を構築していくのだが、初期の彼女は、まだのびのびとラブ・ソングを歌っていた。その当時の彼女の代表曲ともいえるのが、この「嵐ヶ丘」だろう。



この曲のタイトルは、エミリー・ブロンテの同名の長編小説から採られたものだ。嵐ヶ丘と呼ばれる陰鬱な屋敷を舞台に、ジブシーの捨て子であるヒースクリフとキャサリンという令嬢との身分を越えた愛を描いたこの作品は、ヨーロッパでは古典として多くの人々に愛読されている。この小説のイメージをグブらせて聴くと、彼女のこの曲も文芸作品的な味わいを帯びてくる。サビ前の盛り上がり始める部分の歌詞や、サビのコーラス部分の歌詞などは、聴き手をちょっと恥づかしくさせるほど、純粋な愛の世界をみせてくれている。

ケイトのこのような文芸的で高尚な雰囲気にどうも馴染めない、という人も多いはずである。確かに彼女は、パンク・ムーブメントが盛り上がり始めた時代にデビューしたにもかかわらず、社会への反抗というパンク・ロック的な姿勢は殆どみせていない。しかし、そのようなお嬢様の雰囲気こそが、彼女の愛した世界なのだ。実際、彼女はかなり裕福な家庭(医者)の娘で、誕生日のプレゼントとして父親がミキシング・コンソールやシンクラヴィアなどを買い与えたこともあるという。良くも悪くも、貴族が文化を作ってきたイギリスという国の伝統を感じさせる話である。

「嵐ヶ丘」は、86年にリリースされたベスト・アルバム『ケイト・ブッシュ・ストーリー』にも収録されたが、ここでケイトはボーカル・トラッ



「天使と小悪魔」東芝EMI CP21-6082

- ①天使と小悪魔
- ②サキソホーン・ソング
- ③奇妙な現象
- ④嵐に舞う羽根のように(カイト)
- ⑤少年の瞳を持った男
- ⑥嵐ヶ丘
- ⑦ジェームズ・アンド・ゴルド・ガン
- ⑧フィール・イット
- ⑨恋って何?
- ⑩ラムールは貴方のような
- ⑪ローリング・ザ・ボール
- ⑫生命のふるさと
- ⑬キック・インサイド

クだけを録音し直している。デビュー・アルバムでの抑制の効いた歌いっぷりも良いが、ここでの感情移入過多気味のボーカルも彼女らしい。個人的に最も気に入っているのは、79年のコンサートを収録したビデオ「ライブ・アット・ハマースミス・オデオン」における「嵐ヶ丘」だ。彼女はコンサート最後にこの曲を歌い、観衆に手を振りながらステージから消えていくのだが、その手の振り方がもうムチャクチャに激しくて、全身で観衆に感謝しているみたいなのだ。彼女のファンを自認している人には、是非とも見て欲しい映像である。

「嵐ヶ丘」3バージョン

文◆笹川孝司

頭のとっぺんから突き抜けるようなボーカル。それが、初めて「嵐ヶ丘」を聴いた時の印象だ。「嵐ヶ丘」はケイト・ブッシュのデビュー曲として、1977年11月4日にリリースされた。この曲は全英で4週間にわたりチャートの1位に輝き、日本ではシングル「嘆きの天使」のB面として翌1978年4月にリリースされた。

この「嵐ヶ丘」という曲のアイディアは、彼女が13歳の時に生まれたという(何と早熟だったことか)。この頃のホーム・デモをまとめた海賊CD「IF YOU COULD SEE ME FLY」(17曲入り)が最近市場に出回っているが、残念ながら「嵐ヶ丘」のデモは収録されていない。

さて、この「嵐ヶ丘」は1986年にリリースされたベスト・アルバム『ケイト・ブッシュ・ストーリー』に「嵐ヶ丘'86」というタイトルで再収録されている。ここではボーカルを新たに録り直し、バック・トラックもきめてリミックスされている。ちなみに、「嵐ヶ丘'86」はオリジナルよりも約30秒ほど(エンディングが)長い。

またこの曲は、あのバット・ベネターがカバーしていて、1980年に発表されたアルバム「危険な恋人」に収録されている。ケイトのバージョンよりも、ぐっとハードな曲に仕上がっていて、雰囲気はどちらかというと「嵐ヶ丘'86」に近い。



「ケイト・ブッシュ・ストーリー」(東芝EMI CP32-5174)



「危険な恋人」バット・ベネター(東芝EMI CP21-6070)



非機能的なコード進行が新鮮

採譜/解説: 三宅一徳

今回取り上げた「嵐ヶ丘」は、ケイトの魅力が存分に発揮された彼女の代表作ともいえる曲で、デビュー・アルバム『天使と小悪魔』に収録されている。妖しげな雰囲気、女性独特といえる直感的で鋭い詞の世界、そしてサウンド面でも彼女独特の音に対するセンスが、このアルバムから既に強く発揮されていた。

構成は、アコースティック・ピアノによる4小節の素朴なイントロに続いて、メインの部分を2コーラス繰り返した後に新たな展開部分(譜面上[E])を置き、短いが印象的な間奏(3小節)の後、サビ部分を繰り返しながらギター・ソロを導入し、そのままフェード・アウトというシンプルな構成だ。この間奏部分(譜面上[F])はイントロのアイディア(音型)を流用したもので、グロッケン(あるいはチェレスタ)とピアノのコンビネーションがおもしろい。[E]の1小節こそユニゾンだが、2〜3小節目はグロッケン・パートがG^b、ピアノ・パートがB^b_{sus4}とボリコードになっている(G^b/B^b_{sus4})ため、独特の響きになっている。

また、全体を通してのコード進行に注目すると、非機能的な進み方をしている部分が多いことに気

付くはずである。コード・トーンとしては、テンションの少ない単純なコードが中心なので、縦の響きとしては非常にシンプルなのだが、横の流れにおいては通常のコード・プロGRESSIONにはない動きをとっているため、それらのシンプルな響きが非常に新鮮に聴こえるのだ。例えば、AはキーがAメジャーだが、A→F(I→IV^b)という進行におけるFはAマイナーにおけるダイアトニック・コードであり、2小節目にして既に調性感を曖昧にしてしまっているのだ。そしてAメジャーのドミナントである3小節目の'E'は、その調のトニックである'A'には解決せずに、'C[#]'という一見所属不明のコードへと跳んでしまうのだ。この部分の流れは、コードの進行法としてとらえるより、ビバット・トーン(共通音)の保留を前提とした一時的転調としてとらえるべきだろう。だから4小節目の'C[#]'は、F[#]メジャー又はF[#]マイナー的でありながらAメジャーの導音の'C[#]'音を盛っているためにこうしてAメジャーに戻って来るといった具合だ。また、この部分のピアノ・パートが、メジャーかマイナーどちらともつかないような中世的な雰囲気を作り出していた

りもする。このように調性感がないという特徴をもっているが、[E]から[C]に移る時の転調感にはしっかりとしたものがあり、Cの1小節前の'G[#]△'を異名同音的に'A^b△'としてとらえることによって、見事にD^bメジャーへと転調している('A^b△'はD^bメジャーのドミナント)。もともと[C]に入ってから調性は安定せず、確定的な調性感が発生するのは[E]に入ってからなのだが……。このへんの矛盾は、感覚的にわかっていただきたい。

さて、話が難しくなってしまったが、ここで各パートについて注意点をいくつか。

キーボードはアコースティック&エレクトリック・ピアノ、シンセ(ソフト・プラス、グロッケン、チェンバロ、ビブラフォン)、オルガンの音色が必要です。また、生のストリングス(バイオリン、ビオラ、チェロ)のパートも、キーボードがサポートすることになるだろう。この場合は、MIDIでアコピとストリングスを重ねれば、らしい雰囲気は出せるだろう。あくまでもベーシックな部分のカギは、アコピが握っている。なおイントロ部のストリングスはフラジオ(ハーモニクス)による音。

ギターは、生ギターによるコード・カッティングがメインだが、[E]からのギター・ソロが見せ場だ。ボーカル・パートをフェイクしたネチっこいロング・トーンによるこのソロは、最近あまりお目にかかれない音色だ。ライブでやるなら、もっと弾きまくっても良いだろう。

ベースはルート中心の手堅いプレイ。シンプルでドラム・パートと共に、しっかりサポートにまわっている。

しかしなんといっても、この曲の雰囲気を作り上げているのはボーカル・パート。この歌いまわしをしっかりとコピーして、アブリブリにぶりっ子しよう。

VOICE DATA

データ作成/解説: 松崎雄一

◆GLOCKEN ORGAN for M1

PARAMETER	POSITION							
	A	B	C	D	E	F	G	H
OSC BASIC	DOUB	POLY	OFF					
OSC 1 (MULTISOUND)	19			99	4'			
OSC 2 (MULTISOUND)	6			30	8'	+00	+00	00
OSC 1 PITCH EG	0	0	+0	0	0	+0	+0	+0
OSC 2 PITCH EG	0	0	+0	0	0	+0	+0	+0
VDF 1 (CUTOFF/EG INT)				57				45
VDF 1 EG	00	+98	99	+99	99	+99	78	+00
VDF 1 VELOCITY SENS	+25			00	0	0	0	0
VDF 1 KBD TRACK	+14	E5		00	0	0	0	0
VDF 2 (CUTOFF/EG INT)				99				0
VDF 2 EG	00	00	00	00	00	00	00	00
VDF 2 VELOCITY SENS	0			00	0	0	0	0
VDF 2 KBD TRACK	0	E5		00	0	0	0	0
VDA 1 EG	00	99	33	+38	82	00	71	
VDA 1 VELOCITY SENS	+40			10	0	+	+	0
VDA 1 KBD TRACK	00	G#3		00	0	0	0	0
VDA 2 EG	00	99	26	+51	50	+48	41	
VDA 2 VELOCITY SENS	+25			10	0	+	+	0
VDA 2 KBD TRACK	+00	G#3		99	0	+	+	0
PITCH MG	TR1	70	00	05			OSC2	0N
AFTER TOUCH	0	0	0	0			0	
JOY STICK	+02	00		00	00		00	00
EFFECT 1 (TYPE)		24				0N		
EFFECT 1 PARAMETER	80					+00	+07	5050
EFFECT 2 (TYPE)		01				0N		
EFFECT 2 PARAMETER	3.2	060	62	30		-04	+00	7525
EFFECT PLACEMENT						OFF		

▲サビで鳴っているグロッケン風の音色。キー・オンのままでいると、オルガンの音色が残る。グロッケンにはパイプの波形を使用し、アタック感をつけ、ゆっくりとした減衰にセッティング。オルガン音はビブラートとVDFモジュレーションをかけてゆらぎを出す。シンフォニック・アンサンブルとパイプをかけて出来あがり。

◆PITCH PAD for K1

SINGLE NO.		VOLUME	NAME	
COMMON	SOURCES	2		
	-VIBRATO-			
	DEPTH	0	14	PRS-FREQ
	SPEED	26	40	PITCH BEND
	SHAPE	TRI	0	KS CURVE
	PRS-DEPTH	0	0	POLY MODE
	WHEEL	DEP	0	PL1
SW	PARAMETER	S1	S2	S3 S4
FREQ	FREQ	COARSE (FIXED KEY)	0	0
		FINE	0	-2
		KEY TRACK	ON	ON
	FREQ MOD	VIB/A BEND	OFF	ON
		PRS-FREQ	OFF	OFF
		KS-FREQ	0	0
WAVE	WAVE	WAVE SELECT	19	23
	AM	AM S1,S2	OFF	
		AM S3,S4		
ENV	ENVELOPE	LEVEL	100	100
		DELAY	0	0
		ATTACK	20	30
		DECAY	40	66
	VEL CURVE	SUSTAIN	70	10
		RELEASE	41	44
		VELOCITY CURVE	1	1
		VEL-ENV		
	LEVEL MOD	LEVEL	30	30
		PRS-ENV LEVEL	0	0
		KS-ENV LEVEL	-10	-10
		VEL-ENV TIME	0	0
TIME MOD		KS-ENV TIME	0	0

▲イントロ部と歌のバックでピアノと共に鳴っている立ち上がりには特徴のあるパッド。ソースは2系統がベスト。これは音を厚くし過ぎないため。S1, S2共、ノコギリ波をアサインする。S2はS1よりきつい音にし、S2のみオートベンドをかけ、立ち上がり減衰にクセをつけてやるのがポイント。ソースを4にし、同じ音を作ってデチューンですらすと、オーバーハイム・プラス風にもなる。

(♩ = 126)

A

Vocal

Guitar

Strings *15va*

Keyboard *vib*

Ac. Pf *gtr*

Bass

Drums *windchime* *Triangle*

A *8* **A** *F* *E* *C#*

Out on the wi - ley win - dy moor - s we'd roll and fall in side green from you —
 Oh it gets dark — it gets lone - ly on the other side

D.S. time only

Soft Brass

E. Piano

1x tacet

1x tacet

A ^{2x} F E C#

You had a tem - per I pine a lot like my jealou - sy Too hot too gree - dy
I find the lot Falls through with - out you

B A F E ^{2x} C# G#(Ab)

How could you leave me? when I need - ed to possess you I hat - ed you I loved you too
I'm com - ing back love cruel Heath - cliff My one dream my on - ly master

[C] E $\flat$ 7 2x G $\flat$ Δ 7 Fsus4 E $\flat$ 7 2x G $\flat$ Δ 7 Fsus4
 Bad dreams in the night (they) told me I was go - ing to lose — the fight
 Too long I roam in the night (I'm) com - ing back to (his) side to put it — right

Strings
 Cembalo
 Organ

E $\flat$ 7 G $\flat$ Δ 7 Fsus4
 leave be - hin - d my wu - ther - ing wu - ther - ing wu - ther - ing Heights Heath -
 (I'm) com - ing home — to wu - ther - ing wu - ther - ing wu - ther - ing Heights Heath -

1x tacet
 H.H half open
 1x tacet 2x 1x tacet ~ Open

D G^b $E^b m7$ A^b D^b G^b A^b

- cliff it's me ca - thy come ho - me I'm So co - ld let me in - a - your

Ac. Guitar

Strings

Organ 1x

Ac. Pf

D^b 2x to G^b 1. G^b 2. G^b A

win - dow Heath - dow

D.S. time only

windbell

D.S.

♣ Coda

G^b [E] B^bm A^b G^b E^bm7 D^b B^bm

dow — Oh — let me have it let me gra - b your so - ul a - way — Oh — let me

A^b G^b E^bm7 D^b B^bm - A^b(onB^b)

have it — let me gra - b your so - ul a - wa - y you know it's me — Ca -

Chord progression: F G $\flat$ B $\flat$ m G $\flat$ E $\flat$ m7 A $\flat$ D $\flat$

thy _____ Heath - cliff it's me _____ Cathy _____ come ho - me I'm

Glocken

Chord progression: G $\flat$ A $\flat$ D $\flat$ 1. G $\flat$ 2. G $\flat$

so - co - ld let me in - a - your win - dow _____ Heath - dow _____ Heath -

Vocal **H** G^b E^bm7 A^b D^b G^b A^b D^b G^b

- cliff it's me — ca - thy — come ho - me I'm so co - ld

E.Guitar Solo

Backing Col **G**

I E.Guitar Solo
G^b E^bm7 A^b D^b G^b A^b D^b G^b

Backing Col **G**

J G^b E^bm7 A^b D^b G^b A^b D^b G^b

Backing Col **G**

K G^b E^bm7 A^b D^b G^b A^b D^b G^b

Backing Col **G**

Fade Out

Advanced MIDI Sequencer

EXTENDER

エクステンダー

画面に任意の2つのトラックを表示し、やりたいことのほとんどができる強力な編集機能を備えた

MIDIシーケンサーの発展形、発売!

●文字にできる仕様の一部をご紹介します!

■入力値は数値(K#, ST, GT, VEL)とリアルタイムRECやMIDI楽器からの音程入力が可能 ■タイムベース: 48~192 ■入力音符数: 約10万音 ■1曲分のデータはもちろん、1トラック分のデータや任意の部分をパートデータとしてSAVEすることが可能 ■豊富な編集機能: 2つのトラックを一度に画面表示しながら編集できるので作業効率アップ/カーソルの上下で実際の音を発音させながらの編集が可能/カット・ペースト&コピー機能/よく使うデータはクリップボードに登録/データ値の置換が容易なリプレイス機能/データ値を加減乗算するシフト&モディファイ機能/データ値をリニアに加工するインクリメント・エディット機能/任意のデータ値だけを画面表示するパラメータビュー機能/任意のデータ値を捜すサーチ機能/任意のデータ値を消去するイレース機能/編集時や演奏中に20ヶ所までマーキングできるマーカー機能/トラックミックス機能/ワンタッチでしかも音を聞きながらコードが入力可能(展開可能) ■トラック数: 17トラック+4エフェクト・トラック/ピッチベンドやモジュレーションのカーブはエフェクト・データとして別のトラックに展開することでノートデータの整理が可能(パートデータとしてLOAD/SAVE可能) ■演奏: 現在のポリフォニック数を表示するポリフォニックチェック機能/ミュー・ソロ機能/任意の区間を繰り返し演奏するループプレイ機能 ■REC: シングル/マルチチャンネル/ループレコーディング機能(ミックス/オーバーライト)/パンチイン・アウト ■リズムトラック: 48楽器のコントロール/GATE自由/VEL 127段階/1小節内のステップタイム自由/リズムトラックと演奏トラックのデータの移動が可能 ■オートロード&セーブ: RCM・RC*シリーズ/マイクロミュージシャン/ミュージックくん・ミュージック(Jr) ■チャイルドプロセス起動可能 ■ハードディスクへのインストール可能 ■ファイルプレイ可能 ■日本語FEP組み込み可能

好評発売中!

EXTENDER (5"1/3.5" 2HD)

定価 **¥48,000** (消費税込)

▶ マイクロミュージシャン、ミュージックバンクをお持ちのユーザーの方には近日中に詳しい案内パンフレットをお送りします。
▶ お近くに販売店がない場合は当社まで直接お申し込み下さい。(商品名を明記の上定価分の金額を現金書留で郵送して下さい。)

株式会社ミュージックネットワーク

〒227 横浜市長区荏田町234-1 ボナールあざみ野501
TEL. 045-912-2472 FAX. 045-911-5313

※仕様は変更されることがあります。